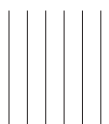


傘福飴

KASAFUKUAME



湊町酒田銘菓



湊町酒田銘菓 傘福飴

◎本間家を生んだ北前船の湊町・酒田

江戸時代、酒田の湊は蝦夷地（北海道）と上方（大阪）を結ぶ北前船の寄港地として大きな賑わいをみせ、「西の堺、東の酒田」と言われるほどだったといえます。その北前船がもたらした繁栄によって、酒田には「豪商」と呼ばれる家が多数ありました。その中でも最も有名なのが、日本一の大地主と名高い本間家です。「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」という川柳が当時庶民の間に広まったほどの豊かさだったと言われています。また、「国家や郷里のために全力を尽くすこと」「よく働き節約に努めること」「人の目に触れない善い行いを重んじること」などの家憲（家の掟）が本間家には代々伝えられ、庄内藩の財政が厳しい時や、飢饉で農民たちが苦しい時には率先して郷土の人々ために救済にあたったと言われています。

◎日本三大つるし飾り 湊町酒田の「傘福」

傘福は、傘の先に幕をめぐらし飾り物を下げるのが特徴です。飾り物には一つひとつ思いが込められており、例えば「花のようにかわいい子に育ちますように」と「花」を、「竹のようにスクスク育ちますように」と「竹」をと、それぞれの願い事を形にしています。

この傘福が酒田の地で作られるようになった起源は二つあると言われています。



ひとつは、願いや祈りの込められた「信仰の傘福」。かつて、酒田の女性達は我が子の成長や家族の健康と幸せを願い、一針一針心を込めて、かわいらしいつるし飾りを作り、傘福にして神社仏閣に奉納していました。現代でも、遙か百年以上前の傘福が現存しており、一つひとつの細工物から当時の人たちの想いが伝わってきます。

もうひとつは、「宝づくしの傘福」です。酒田は商人の町として栄えてきました。江戸時代、北前船の往来が盛んだった頃、酒田の豪商である本間家三代当主の光丘は、明和2年（1765年）祭りを盛大にすることで酒田の町を活性化させようと、京都の人形師に、亀の形を模した「亀笠鉦（かめかさほこ）」と呼ばれる巨大な山車を作らせました。そして、その山車に傘を立て、町が発展するよう願いを込めて、宝袋、鍵、軍配、小籠、隠れ蓑など縁起物の細工物を吊り下げ、酒田で400年前から続けられてきた山王祭で、町中を練り歩いたと伝えられています。その当時の様子は「日枝神社大祭図」に描かれており、酒田を活性化させたという本間光丘の強い意志を伺い知ることが出来ます。



◎湊町酒田銘菓 傘福飴

子の成長と家内安全を願う傘福の思いを、昔ながらの口あたりの優しい飴に込めました。熟練の組飴職人が全て手作業で組み上げて作る傘福飴は、一つとして同じ模様はありません。手作りならではの味わいのある可愛い図柄に、お子様やご家族の幸せへの思いを重ねてお召し上がりください。



【あまごけ】

さる（去る）にかけて、災いや厄、病気が子どもや家族から去るように、という思いが込められています。



【宝袋】

子供の心が豊かになりますように、かわいい子供がお金に不自由しませんようにという願いが込められています。



【うさぎ】

赤い目のうさぎは呪力があるとされ神様のお使いとも言われています。家内安全の思いが込められています。



【朝顔】

古くから百葉の長とされています。また、子供が花のように美しくなりますように、という思いも込められています。



【桃】

桃は邪気・悪霊を退治すると言われており、子供に延命長寿を授けてくれるように、との願いが込められています。

